

## 令和2年度第4回 小平市環境審議会 会議要録

### 1 日 時

令和2年10月29日（木） 午後2時～午後3時10分

### 2 開催方式

Web 会議形式

※502 会議室を傍聴のために開放

### 3 出席者

○小平市環境審議会委員 11名

奥真美会長、中島裕輔副会長、小口治男委員、中川都委員、西村守正委員、服部千春委員、井内真委員、鈴木庸夫委員、三島雄介委員、小柳知代委員、青山一彦委員

○事務局 15名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課環境対策担当係長、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長補佐、資源循環課廃棄物減量担当係長、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

### 4 傍聴者

1名

### 5 議 題

- (1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の素案について
- (2) (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画の素案について
- (3) (仮称) 小平市第二次下水道プランの素案について
- (4) その他

### 6 配付資料

- 資料1 (仮称) 小平市第三次環境基本計画 (素案)
- 資料2 (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画 (素案)
- 資料3 (仮称) 小平市第二次下水道プラン (素案)

### 7 内 容

- (1) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の素案について  
(事務局)

資料1に沿って説明。

(委員)

環境家計簿の利用件数の数値目標については、2019年度の現状値2,503件に対して、2030年度の目標値5,000件となっている。ここでの件数は入力した月数の合計とのことなので、一世帯が12か月入力すると仮定すると、208世帯から416世帯になるという計算である。もう少し意欲的な目標値にしてもよいのではないか。

(事務局)

目標値5,000件は現状の利用者を2倍に増やすことである。市のエネルギー機器設置に関する補助金を受け取った人には、環境家計簿を1年間入力することを義務付けているが、1年経過後に環境家計簿を入力しなくなる場合が多い。こういう人達に引き続き利用してもらうほか、環境配慮を意識して自ら率先して利用する人を増やせたらと考えている。

いずれにしても、この200世帯程度の利用がここ数年続いているため、これを打破して2倍にするというのは、意欲的な目標と考えている。

(事務局)

目標達成が早かった場合、より上の数値を目指せばよいので、目標はこれでよいと思う。

(委員)

ZEV車両について、市は現在、車を何台保有していて、そのうちZEVは何台くらいあるのか。

また、拡大生産者責任の観点より、事業者回収を推進と書いてあるが、この部分をもう少し詳しく教えてほしい。

(事務局)

ZEVについては、令和元年度末時点で、庁用車の総数99台のうち6台が電気自動車となっている。令和2年度はさらに新規購入や買い替えなどを行い、令和2年度末には電気自動車が12台になる予定である。

(事務局)

事業者回収について、前回まで目標としては資源化率35%を挙げていた。資源化率は一般的に資源化されるから望ましいと思われているが、リサイクルされる前段で発生抑制を図ることもできるので、必ずしもそう言い切れない。なお、直近の令和元年度実績でプラスチック製容器包装が全量リサイクルできることになって、リサイクルの量が増えた。

プラスチックごみの問題があり、そもそもプラスチックは削減されなければならない。リサイクルの前に排出抑制が大事となるうえ、プラスチック製の容器包装は、拡大生産者責任の考え方から生産者の方にも回収をお願いしていく必要があるため、指標としては事業者の回収を進めつつ、市でも集める量をなるべく削減していくこととして、指標を変更した。

(会長)

資源化物と表現しているもので、プラスチックごみに限らず拡大生産責任の原則に沿って、自分で作ったり、売ったりしたものについては、事業者が回収ルートを整備して、適正な処理をしていただくという考え方ですね。

一般の人が読んで、拡大生産者責任を理解できるように、もう少し説明を加えていただきたい。

(委員)

菅首相が2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすると発言したが、これを受けて、国の計画が変更になるような場合は、小平市の目標を変更する予定はあるか。

(事務局)

菅首相は2050年に言及しており、市としては、現段階では粛々と計画策定に取り組む。

ただ、国が2030年にこうすると具体的に示した場合には、その内容やタイミングにもよるが、これを踏まえる必要が生じる可能性がある。計画策定後に時期を見て見直しを図るのか内部で検討する必要がある。

(会長)

2030年については、東京都の目標値に合わせて、小平市は30%でいくということですね。

(委員)

70ページの農地面積の目標について、2019年の現状値の179haに対し、2030年の目標値が165haと設定しているが、50ページのみどり率を見ると同じ期間で現状維持を目標としている。みどり率を維持するためにどのようにみどりを増やしていくのか。

(事務局)

農地が減少している中で、厳しい目標設定であると認識している。現時点で特定の施策のみどり率を維持するというのを申し上げることは難しいが、様々な施策を実施し市全体のみどりを増やしていきたいと考えている。

(委員)

今後具体的な施策が示されるということによろしいか。

(事務局)

例えば、都市計画公園の整備を予定しており、東京都と区市町が策定した都市計画公園の整備方針にも位置付けている。こういったものも含めて今後検討していきたい。

(委員)

57 ページの基本方針Ⅳの施策 2 に書いてある「アライグマ・ハクビシン対策」については、目的は住環境を良くするためということではあるが、基本方針Ⅲの施策 2 の外来種対策にも関連してくるので、そちらにも載せてはどうか。

(事務局)

「アライグマ・ハクビシン対策」の取組に、自然環境分野にも関連することを記載する。

(委員)

34 ページの第二次計画の重点施策と数値目標の状況では、環境家計簿の利用件数が令和元年度 2,010 件と記載されているが、37 ページの数値目標の現状値 2019 年度では 2,503 件となっており、数値が違っているのはなぜか。

もう一つ、「環境家計簿アプリの活用」は省エネルギーの推進と同時に、基本方針Ⅴの施策 3 普及啓発による環境意識の向上にも関わることを示した方がよいのではないか。

(事務局)

34 ページの利用件数の方は、環境家計簿に登録した件数である。37 ページの方は登録したあとに、毎月入力があれば、その入力件数である。登録はしたが利用に繋がらないという現状を変えるための目標設定とした。34 ページの第二次計画の利用件数の方を、解りやすい記載の仕方に変更する。

もう一つの「環境家計簿アプリの活用」については、基本方針Ⅴの施策 3 に関連付けられるか内部で検討する。

(会長)

「気候変動適応策の分野間での横断的連携」を「気候変動適応策の普及啓発」に変えたとのことだが、前回は、分野間での横断的連携が何を示しているのかよくわからないので、もう少し言葉を補足した方がよいと申し上げた。

おそらく市役所の中で適応策に関わるような政策を展開している部署が、それぞれできることをしっかりやっていくという意味で横断的連携と使ったと推察したが、趣旨がわかるように表現を変えればよいと思っていた。普及啓発となると、全然違う意味になる。

全庁的に推進することを見せて、環境政策課だけでやるのではないことを、市役所の内部で共有することが重要と考えるがどうか。

(事務局)

前回記載していた「気候変動適応策の分野間での横断的連携」については、本文の中に、他分野との連携に努めると記載している。環境基本計画の具体的な取組の中にこの内容を位置付けるべきではないのではとの議論になり、文章の方に載っているものを残すこととし、取組には普及啓発を位置付けることにした。ただ、この文章の中でも、書きぶりが足りないため、もう少し厚

みを持たせてわかるようにする。

(会長)

指摘のあったとおり、説明をもう少し充実させることや、施策間で重複している取組の記載方法など、修正したうえでパブリックコメントにかけるようお願いする。

## (2) (仮称) 小平市第二次みどりの基本計画の素案について

(事務局)

資料2に沿って説明。

(委員)

15 ページの前回計画の達成状況について、緑被率の目標は達成できなかったことはわかるが、その他の施策の方針の達成状況については、できたことのみを記載しており、できなかったことや課題が記載されていないため、説明を記載したほうが分かりやすいと感じた。

33 ページ以降の取組について、いくつか再掲の取組があるが、それがどの施策に記載されていたかわからないので、記載したほうが見やすいと思う。

39 ページの生物多様性に関する施策について、施策の内容は主に保全のことが記載されているのに対して、施策名では確保という言葉が使われているのはなぜか。

10 ページの図のキャプションが図の上にあるが、下にあったほうが見やすいように思う。

(事務局)

達成状況については、成果を例示しており、他のページにて小平市のみどりの課題について記載している。記載方法について検討したい。

再掲の記載については修正し、生物多様性の施策名についても取組内容に合わせた施策名に修正したい。

(委員)

生物多様性については、ビオトープの創出等の取組もあるので、保全だけではなく、向上などより進んだ表現も入れていただきたい。

(事務局)

施策名の表現については取組内容によって向上というのが難しいものもあるので、保全という表現で検討させていただきたい。図のキャプションについては、修正を検討したい。

## (3) (仮称) 小平市第二次下水道プランの素案の検討について

(事務局)

資料3に沿って説明。

— 質疑なし —

(4) その他

(事務局)

今後の環境審議会日程を連絡。